厚生労働省委託事業　平成23年度キャリア教育専門人材養成事業

中学校におけるキャリア教育実践講習のカリキュラムの流れとテキスト台割

【目的】キャリア形成の流れに則り、キャリア教育を実践するうえで必要となる知識・実践力を養成する。
本講習を通して、中学校教員及びキャリア・コンサルタント等の外部専門人材が相互交流を果たし、意見交換を行うことでより効果的なキャリア教育が実現できるよう支援する。

Part1＜キャリア・コンサルタントのためのキャリア教育実践講習＞（第1日目）　所要時間：6時間程度

中学校におけるキャリア教育の理念、制度などの理解を深める。またグループワークを通じて、情報・意見交換を活発に行い、学校現場でどのように外部専門人材が働きかけを行うべきか等を学校のリアルな声やキャリア教育の先進事例等に即して考える。

テーマ・目的	時間	コンテンツ	進め方	運営形式	参考資料	頁
◆　オリエンテーション 講師・参加者間の交流を促進すると同時に本講習の概要・目的について理解しながら、参画意識を高めます。	10:00～ （30分）	・資料確認、グループ分け ・講師自己紹介 ・講習の目的、スケジュール説明 ・受講者自己紹介	・資料の確認、グループ分けの実施（1グループ内に中学校教員と外部専門人材が両者入るようにグループ分けすることが望ましい）。 ・講師の自己紹介を行う。 ・講習の目的（キャリア教育の担い手の育成）と背景（キャリア教育をめぐる現状と意義について）を理解する。 ・講習の編成（Part1・Part2）、スケジュール、Part1概要（01キャリア教育とは～04中学校・中学生への働きかけ）説明する。 ・グループ内で自己紹介、アイスブレイクを行い参加者同士の連帯感を高め、交流を促進する。	説明 講師挨拶 講義 グループワーク		
◆01　キャリア教育とは キャリア教育の定義や育成すべき能力について学ぶと共に、教育に関する法律や施策の変遷、キャリア教育の目標、生徒の発達課題について理解を深めます。	10:30～ （30分）	A キャリア教育の定義	・キャリア教育のイメージについてグループワークで意見を出し合った後、全体発表を行い現状の認識について共有し合う。その上で、講義を通して中央教育審議会で示されているキャリア教育の定義について、キャリア教育が求められる背景を踏まえながら理解する。	グループワーク⇒全体発表 ⇒講義	キャリア教育定義の補足 キャリアの語源 進路指導の内容	02
		B 職業教育との違い	・教育現場で混同されることが多い「職業教育」の定義と「キャリア教育」の定義について、「職業教育」は具体的な職業に関する教育を通して行われるものであるが、「キャリア教育」は普通教育、専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施されるものであることといった違いに着目しながら関係性を理解する。	講義		02
		C 進路指導との違い	・「進路指導」の取り組みは「キャリア教育」の中核をなすとされており、その目指すところはほぼ同じであるが、その対象となる期間（教育段階）が異なることに着目しながら関係性を理解する。	講義		02
		D 法律・施策からみたキャリア教育	・教育に関する基本的な法律・施策等（①教育基本法、②学校教育法、③教育振興基本計画、④中央教育審議会答申）の変遷について確認し、「キャリア教育」が近年注目されている背景と「キャリア教育」に関する法改正等の概要について理解する。	講義		03
		E 中央教育審議会「答申」の柱	・中央教育審議会「答申」の柱である8つの方策をもとに、キャリア教育を推進するために、どのような方策が打ち出されているかを理解する。	講義		03
		F キャリア教育で育成すべき能力	・キャリア教育にて育成すべき4つの基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）の内容を確認し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に向けてどのような能力が必要と考えられているかを理解する。	講義		04
		G キャリア教育の目標と発達課題	・①小学校、②中学校、③高校の発達段階に応じた職業観・勤労観を育むための枠組みについて理解する。 ・平成23年5月に文部科学省から出版された「中学校キャリア教育の手引き」（P18・19、115-125）で、4領域8能力の枠組み例を確認し、理解を深めると効果的。	講義	「中学校キャリア教育の手引き」（抜粋）	05
	11：00～	休憩（10分）				
◆02　中学校への理解 中学校の組織体制や学校を取り巻く環境について学ぶと共に、授業内で実施されるキャリア教育や中学教員の業務についても理解を深めます。	11:10～ （80分）	A 中学校の組織体制（例）	・テキストに書かれた中学校の組織体制を一例として、校長を頂点とした中学校の組織体制、進路指導担当部署、委員会等の位置づけを理解する。	講義	中学校の関係組織	06
		B 中学校を取り巻く環境	・中学校を取り巻く地域・家庭等の環境について理解するとともに、外部専門人材としてキャリア教育に参画するにあたって、地域、家庭等との連携をいかにして図るべきかを図例を通して考える。また、参考データとして「中学校設置者別学校数」や「中学校の学年別生徒数」を確認し、中学校を取り巻く環境の推移について理解する。	講義	中高一貫教育校	06-07
		C 今回の学習指導要領の改訂	・平成20年に告示された新学習指導要領の特徴を理解する。特に、キャリア教育として、職場体験、職業や自己の将来に関する学習活動、特別活動における人間関係の形成などが挙げられていることを確認する。	講義		08
		D 授業内のキャリア教育	・国語、社会、数学等の各教科と結びつけたキャリア教育の重要性を理解するとともに、授業内ではどのような切り口でキャリア教育が行われているのか活動例を通して理解する。	講義	キャリア教育を進める際の注意点 キャリア教育の推進状況	09
		E 中学校3年間の行事（例）	・一般的な中学校3年間の行事を紹介し、キャリア教育を行うに当たっては、これら中学における行事や活動を踏まえる必要があることを理解する。	講義	コラム：中学校の理解	10-11
		F 中学校教員の仕事	・中学校教員の一日の流れや業務分類から、教員の業務内容や業務量の多さについて確認し、外部専門人材としてキャリア教育に参画する際に、どの切り口から多忙な教員を手助けすることができるかを検討してみる。また、中学校教員に関するクイズや保護者についてのアンケート結果を使って中学校教員の実態を確認する。	講義	キャリア教育に携わる教員の悩み（例）	12-13
	12：30～	休憩・昼食（60分）				
◆03　中学生への理解 中学生の実態や課題について理解すると共に、中学校卒業後の進路状況について理解を深めます。	13：30～ （60分）	A 中学生の実態	・現在の中学生についてのイメージをグループワークで意見を出し合った後、全体発表を行い現状の認識について共有し合う。その後、中学校現場における中学生の実態を講師から説明する。 ※教員が参加している場合は、教員からも中学生の実態を発信してもらうと効果的。	グループワーク⇒全体発表 ⇒講義		14
		B 中学生の課題と悩み	・中学生の悩みに関するグラフをもとに、1位・2位に当てはまる悩みを各自で検討した後、講師から答えを説明する。また、解答欄に当てはまる答えのみではなく、「中学校在学時に指導してほしかったこと」や「中学校の進路指導への期待」等のアンケート結果を参考にしながら、具体的にどういった悩みがあるか、その解決策等についてグループワークで話し合った後に、全体発表を行い意見を出し合う。その後、講師から中学校現場における中学生の課題と悩みについて説明を行い、理解を深める。	講義⇒グループワーク⇒全体発表⇒講義	悩みや心配事の相談相手 いじめの状況中学生のストレス解消 中学生のなりたい職業	14-15
		C 中学生の進路	・「卒業者数」の資料から、中学生の大半が高等学校へ進学し就職者はわずかであることや、中学校卒業後の進路イメージについて確認する。また、「進路希望の決定時期」や「進路選択に役立ったもの」などの参考データを踏まえながら、中学生の進路選択の時期、情報源や相談相手について理解する。	講義	文理・選択の時期 高等学校に入学した動機（学科別）	16-17
	14：30～	休憩（10分）				
◆04　中学校・中学生への働きかけ 中学校への働きかけ方や生徒との接し方について、ワークを用い実践しながら理解を深めます。	14:40～ （60分）	A 学校への働きかけ	・01～03の章で学んだことを踏まえて、まず外部専門人材として学校への働きかけに使える自分自身の「強み」「弱み」を整理し（個人ワーク）、その後「学校に働きかける方法」についてグループワークで意見を出し合う。また、全体で意見を共有するため、全体発表を行う。	個人ワーク⇒グループワーク⇒全体発表		18
		B 生徒への働きかけ	・01～03の章で学んだことや、中学生の各学年で陥る課題や不安について整理し、中学生が多感な時期であることを念頭に置いて、外部専門人材として中学生と接するときに留意する点についてグループワークで話し合った後全体発表を行う。	グループワーク⇒全体発表	聞くスタイルの基本	19
◆　Part1 まとめ	15：40～ （20分）	Part1まとめ	・Part1で学んだことの振り返りをセルフチェック項目を利用して行う。	セルフチェック	コラム：中学生期の特徴を理解しよう	20
	16：00終了					

Part2＜教員とキャリア・コンサルタントのためのキャリア教育実践講習＞（第2日目） 所要時間：7時間程度

キャリア形成の流れに則り、「自己理解」「社会理解・職業理解」「啓発的経験」「キャリアプランニング」のテーマで授業に使えるコンテンツやワークシートなどを実践する。また、「外部専門人材」の特徴を理解することで外部の人材を学校内で活用する方法について考える。

テーマ・目的	時間	コンテンツ	進め方	運営形式	参考資料	頁
★オリエンテーション ①Part2の流れの基本となる「キャリア形成の6ステップ」について理解します。 ②2日目からの参加者を対象に、本講座の概要と目的を伝え、参画意識を高めます。	9:30～ （30分）	Part2の流れ説明 （事務局挨拶、講師自己紹介、講習の目的 スケジュール説明、受講者自己紹介）	・Part2概要（05外部専門人材の活用～09キャリアプランニング）について説明する。 （事務局挨拶、資料の確認、グループ分けの実施、講師の紹介、講習の目的と背景、講習の編成、スケジュール、グループ内で自己紹介）	説明		20
★（振り返り） キャリア教育の定義、必要性の理解を促進します（主に教員向け、キャリア・コンサルタントには振り返りとして）。	10:00～ （40分）	A キャリア教育の定義	・キャリア教育のイメージについて、1日目に受講生から出た意見を講師から説明する。その上で、講義を通して中央教育審議会で示されているキャリア教育の定義について、キャリア教育が求められる背景を踏まえながら理解する。	講義	キャリア教育定義の補足、キャリアの語源	02
		B 職業教育との違い	・教育現場で混同されることが多い「職業教育」の定義と「キャリア教育」の定義について、「職業教育」は具体的な職業に関する教育を通して行われるものであるが、「キャリア教育」は普通教育、専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施されるものであることといった違いに着目しながら関係性を理解する。	講義		02
		C 進路指導との違い	・「進路指導」の取り組みは「キャリア教育」の中核をなすとされており、その目指すところはほぼ同じであるが、その対象となる期間（教育段階）が異なることに着目しながら関係性を理解する。	講義		02
		D 法律・施策からみたキャリア教育	・教育に関する基本的な法律・施策等（①教育基本法、②学校教育法、③教育振興基本計画、④中央教育審議会答申）の変遷について確認し、キャリア教育が近年注目されている背景と「キャリア教育」に関する法改正等の概要について理解する。	講義		03
		E 中央教育審議会「答申」の柱	・中央教育審議会「答申」の柱である8つの方策をもとに、キャリア教育を推進するために、どのような方策が打ち出されているかを理解する。	講義		03
		F キャリア教育で育成すべき能力	・キャリア教育にて育成すべき4つの基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）の内容を確認し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に向けてどのような能力が必要と考えられているかを理解する。	講義		04
		G キャリア教育の目標と発達課題	・①小学校、②中学校、③高校の発達段階に応じた職業観・勤労観を育むための枠組みについて理解する。 ・平成23年5月に文部科学省から出版された「中学校キャリア教育の手引き」（P18・19、115-125）で、4領域8能力の枠組み例を確認し、理解を深める。	講義		05
◆05　外部専門人材の活用 キャリア教育における外部専門人材の機能・役割や活用法、連携の仕方について理解を深めます。	10:40～ （30分）	A キャリア教育に関わる人材の役割と機能	・キャリア教育の効果的な展開のためには、学校が家庭や地域・社会、企業、NPO等と連携した取り組みを進めることが重要であることを確認する。さらに、中学校のキャリア教育推進に関わる人材とその役割についてキャリア・コンサルティングの関わりを中心に確認しつつ、それぞれがどういった役割を担うべきか理解する。	講義	外部専門人材の悩み（例） 連携の重要性 外部専門人材の活用内容例	22
		B キャリア・コンサルタントとは	・外部専門人材の中でも、キャリア・コンサルタントが担う役割や支援例、活動の場を理解し、キャリア・コンサルタントが中学校・高等学校に対してどういった支援が可能なのかについて具体的に理解する。	講義	キャリア・コンサルティング キャリア・コンサルティング技能検定 標準レベルキャリア・コンサルタント	23
	11：10～	休憩（10分）				
◆06　自己理解 自己理解の意義やポイントを理解すると共に、その方法とツールについての知識を習得し、現場で実践できるスキルを身に付けます。	11：20～ （60分）	A 自己理解の意義と目的	・自己理解のさまざまな切り口（キャリア整合性、対人性タイプ）を踏まえながら、自己理解を行うことの意義・目的について理解する。また、自己理解は決して単独で深まるものではなく、様々な体験活動や他者からの気づきを得ることでより深まっていくものであることを理解する。自己理解の方法（①主観的方法、②客観的方法、③アセスメントツールの活用）について、個人ワークで考えた後、グループワークで意見を出し合い、その後全体発表で共有し合う。	講義⇒個人ワーク⇒グループワーク⇒全体発表	ジョハリ窓	24
		B 自己理解の方法	・自己理解の方法（①主観的方法、②客観的方法、③アセスメントツールの活用）の具体的な事例を、巻末のワークシート「強み＆弱みシート」「好きなものマップ」「メッセージカード」「インタビューシート」（P42・43）等を用いながら確認する。 ・アセスメントツール活用の一例として、中学生でも簡単に職業の興味の方向や自信の程度が判定できるVRTカードを2人1組になって実際に利用し、使い方を理解する。また、より詳細な結果が出るアセスメントツールとして、職業レディネス・テストも併せて紹介をする。どちらのアセスメントツールを使う場合も、結果を絶対視しない、欠点ばかりを問題視しないといった点も留意する。	講義 グループワーク⇒講義	【ワークシート】「強み弱みシート」「好きなものマップ」「メッセージカード」「インタビューシート」 アセスメントツール活用の留意点 職業レディネス・テストの活用方法 検査結果を解釈するときのポイント コラム：自己理解	25-27
	12：20～	休憩・昼食（60分）				
◆07　社会理解・職業理解 社会理解・職業理解の意義や方法について理解すると共に、キャリア教育を推進するうえで知っておくべき社会・雇用情勢等の知識を習得します。	13：20～ （50分）	A 社会理解・職業理解の意義と目的	・社会理解・職業理解の意義・目的について理解する。特に社会理解・職業理解によって自己理解が深まり、よりよい職業選択につながること、正しい情報を入手することが大切であることに留意する。	講義	正規雇用者 非正規雇用者 フリーター	28
		B 指導の参考となる知識	・指導の参考となる知識として、「日本の就業者人口」「正規雇用者と非正規雇用者の推移」「フリーターの数の推移」といった一般的な社会・雇用情勢のデータを確認し、非正規雇用者の増加や、フリーター数が減らない現状について、その要因を時代背景とともに理解する。 ・産業構造の変化について、就業者が多い産業を確認するとともに、「産業別就業者人口変化」から第一次産業の就業者が減少し、サービス業や医療、福祉業界の就業者が増加していることを確認する。また、テキストの巻末資料「さまざまな働き方」「労働法」（P53・54・55）を確認し、中学生段階で知っていてほしい基礎的な知識を確認する。 ・参考データ「職業別有業者数」を踏まえながら、職業数についてグループワークで意見を出し合った後、結果を全体発表する。その後、講義を通して巻末のワークシート「職業発見シート」や「1日に出会った職業」を参考に、中学生に職業への興味を持たせるための働きかけ方について理解する。	講義 講義 グループワーク⇒全体発表⇒講義	【参考知識】さまざまな働き方、労働法 【ワークシート】「職業発見シート」「1日に出会った職業」	28-30
		C 社会理解・職業理解の方法	・「給与データ等」や「中学校3年間の学校教育費」といった参考データを踏まえながら、社会理解・職業理解を促進する方法についてグループで意見を出し合った後、全体発表で話し合い共有する。また、「OHBYカード」等のツールを使いながら、職業理解を図る方法について紹介する。	グループワーク⇒全体発表⇒講義	職業理解を促進するHPと書籍例 【ワークシート】「ライフイベント・マネーQ&A」「さまざまな働き方を考えるシート」	30-31
◆08　啓発的経験 啓発的経験（主に職場体験）について理解し、その方法・手順について学ぶと共に、教員と外部専門人材が協力し、現場で活用できる連携施策を考えます。	14:10～ （90分）	A 啓発的経験の意義と目的	・3ヵ年の学校生活において啓発的経験（職場体験等）を行うことの意義・目的について理解する。特に、単発の体験だけで終わらせず、事前事後の動機付けと振り返りの指導が重要であることや、職場体験以外にも、様々なキャリア教育に関わる体験学習があることを理解する。	講義	【ワークシート】「ボランティア体験シート」「職場体験事前準備シート」	32
		B 職場体験の実施状況	・「学校別職場体験実施状況」「学年別・期間別職場体験実施状況」「職場体験の教育課程等への位置付けの状況等」といったデータを踏まえながら、大多数の中学校で職場体験が実施されていることや、さらに6割以上の学校で3日以上の職場体験が実施されていること、一方で総合的な学習の時間での実施が大半であり、教科の授業での実施が少ない、といった状況について理解する。	講義		33
		C 職場体験の流れ	・職場体験実施の前後を踏まえた流れの中で、教員・生徒がそれぞれ実施する準備・行動について理解する。また、「職場体験やインターンシップ前後の指導内容」や「職場体験実施の落とし穴」といった参考データを確認しながら、効果的な職場体験の実施方法やその協力体制について理解する。	講義	中学校の職業体験で問題になること課題になること	34－35
		D 職場体験の効果	・「職場体験の成果」のデータを踏まえながら、職場体験の効果を、一過性のものにしないために、意義・目的を明確にする必要があることを理解する。また、「職場体験日数の差による意識の変容」から、日数が及ぼす効果について確認する。	講義		36
		E 職場体験の事例	・広島県竹原市立竹原中学校「職場体験を中心とした中学校3ヵ年のキャリア教育基本プランと系統的実践」の事例を通じ、3ヵ年を見通したキャリア教育を計画的に実施し、体験活動を一過性の行事にしないことが大切であることを理解する。	講義	【年間指導計画例】竹原市立竹原中学校の事例詳細	37
		F 職場体験と外部専門人材	・これまでに学んだことや「職場体験で課題になること」を踏まえ、職場体験における流れの中で外部専門人材が支援できることをグループワークで意見を出し合い、その後全体発表で共有し合う。	グループワーク⇒全体発表		37
	15：40～	休憩（10分）				
◆09　キャリアプランニング キャリアプランニングについて理解し、その方法について学ぶと共に、キャリアプランから現在の課題・行動を明確化するた	15：50～ （20分）	A キャリアプランニングの意義と目的	・これまでに学んだ「自己理解」「社会理解・職業理解」「啓発的経験」の内容を踏まえながら、キャリアプランニングの意義・目的について理解する。	講義		38
		B キャリアプランニングの指導方法	・これまでに学んできた知識やワークをもとに、キャリアプランニングの指導方法についてケーススタディを使ってグループで意見を出し合った後、全体発表で話し合う。その後、講義を通して、中学生に対して接する際の留意点や、キャリアプランニングには様々な指導方法があることを理解する。	グループワーク⇒全体発表⇒講義	【ワークシート】「人生プランシート」「これからの行動計画シート」 コラム：キャリアプランニング	38-39
◆　Part2 まとめ 午後に学んだ内容をまとめ、振り返り、自身の行動目標へと落とし込むと同時に、自分のグループ外の受講者との交流を行います。	16：10～ （20分）	・Part2まとめ ・キャリア教育の評価	・Part2で学んだことの振り返りをセルフチェック項目を利用して行う。 ・学校におけるキャリア教育についてのPDCAサイクルについて理解する。	セルフチェック 講義		40
		・資料紹介 ・受講者交流	・キャリア教育に活用できるワークシート＆知識のご紹介をする。 ・受講者同士の交流を行い（名刺交換など）、アンケートの記載を行う。	講義 交流	P42～P56の資料	42-56
	16:30終了					

注）カリキュラム中の網掛け部分（テーマ名に★印）は、主に2日目から参加される教員向けに説明する部分（前日からの参加者<主にキャリア・コンサルタント>には、内容が一部重複する）。2日目から参加される教員が少ない場合には、要点のみを伝える。

（留意点）

※この講習では知識を学びに来るだけでなく、主体的に考え、実践することで、より実践的なノウハウの習得を目的とする。

※この講習では「講義⇒グループワーク⇒意見共有（全体）⇒整理・まとめ」を基本的な流れとし、グループ内で課題・意見を出し合い、解決方法を導き出す「アクションラーニング」を基本とする。

※グループワークが中心となるため、テキストは受講者同士の意見や発表内容を随時書きませる形とする。

※平成23年5月に文部科学省から出版された「中学校キャリア教育の手引き」（P18・19、115-125）を副教材として利用する為、事前に準備する。